

令和7年度事業報告書

～ みやぎの赤十字 ～



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

宮城県支部

赤十字のはじまり

1859年、スイス人 アンリー・デュナンは、第2次イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノに程近いカスティリオーネで、戦野に放置されていた傷病兵の悲惨な有り様を目の当たりにしました。

その時、デュナンは「傷ついた兵士は、もはや兵士ではなく、人間である。人間同士として尊い命を救わなければならない。」という思いを抱き、住民の協力を得て、敵味方の区別なく救護に努めました。この体験を記した著書「ソルフェリーノの思い出」がデュナンの抱いた思いの尊さを世界に広め、1863年に赤十字国際委員会 (ICRC) が、また1919年には平時活動を担当する国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC) が創設されました。

日本赤十字社の誕生

日本赤十字社は、1877年の西南戦争の際、さ の つねたみ おぎゅうゆずる佐野常民と大給 恒によって設立された救護団体「博愛社」が前身です。(1887年「日本赤十字社」に改称。)

彼らは、官軍・薩摩軍双方に多数の死傷者が出ている悲惨な状況に、戦争時の傷病者救護の必要性を痛感して博愛社の設立を明治政府に願い出ます。「敵味方の区別なく救護する」ことへの理解が得られずに一度は却下されますが、佐野は熊本ありすがわのみやたるひとの官軍司令部に赴き、西南戦争の征討総督であった有栖川宮熾仁親王へ直接願い出て、親王の英断によりその設立が認められました。

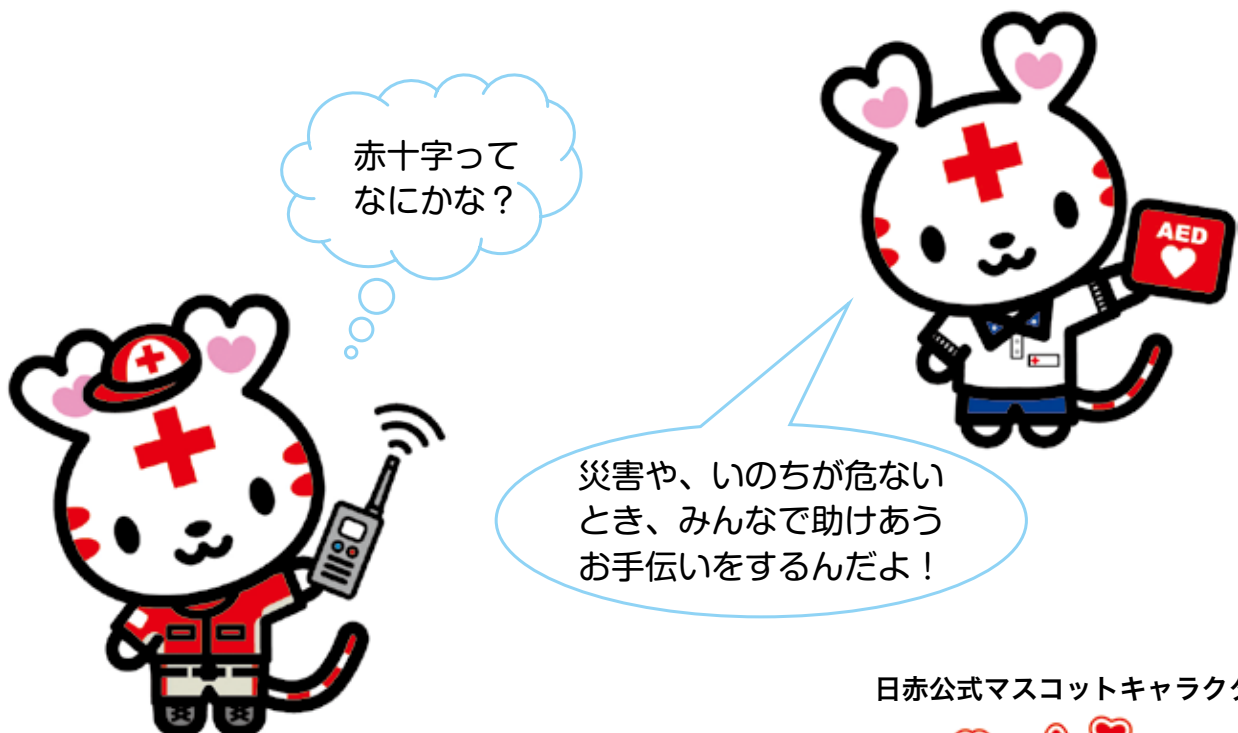
宮城県支部は、1887年に「日本赤十字社宮城県委員部」として開設され、1894年に「日本赤十字社宮城支部」、1953年に「日本赤十字社宮城県支部」となって現在に至ります。

赤十字の標章

赤十字の標章は、1863年の国際会議において、創始者アンリー・デュナンの祖国スイスに敬意を表し、スイス国旗の配色を転用して「白地に赤十字」と決められました。現在は、イスラム教国の多くが「白地に赤い三日月（赤新月）」のマークを使っていますが、これも赤十字と全く同じ組織であることを示す標章として認められています。また、2007年1月には「白地に赤いひし形（レッドクリスタル）」が追加され、これを使用する国は、レッドクリスタルの中にその国独自のマークを入れて使用することが認められました。

これらの標章は、保護の標章として、戦時において軍の衛生部隊に所属する人、建築物、施設、車両及び資材等に付し、付されたものを攻撃対象としてはならないと決められています。また、表示の標章として、赤十字社の建物、自動車、出版物等に対し、赤十字の目的達成のために使用されます。

赤十字標章の使用は、国際法「ジュネーブ条約」、さらにそれぞれの国内法（日本では「赤十字の標章及び名称等の使用の制限に関する法律」昭和22年法律第159号）により厳しく制限されています。



赤十字って
なにかな？

災害や、いのちが危ない
とき、みんなで助けあう
お手伝いをするんだよ！

日赤公式マスコットキャラクター

ハートちゃん

目 次

• 1	（ 救護活動	P 1
• 2	（ 国際活動	P 4
• 3	（ 赤十字の講習	P 6
• 4	（ 赤十字奉仕団・赤十字ボランティア	P 8
• 5	（ 青少年赤十字（JRC）	P10
• 6	（ 赤十字精神と社旨の普及	P12
• 7	（ パートナーシップ協定等	P13
• 8	（ 会員・協力会員の募集状況	P14
• 9	（ 評議員会等の開催状況	P14
• 10	（ 職員研修の開催状況	P14
• 11	（ 支部事務局職員数	P15
• 12	（ 医療事業	P15
• 13	（ 看護師養成事業	P18
• 14	（ 血液事業	P21
• 15	（ 令和7年度決算	P23

1 (救護活動

(1) 災害救護活動

災害による被災者の救護活動を迅速かつ的確に実施するため、仙台・石巻両赤十字病院に常備医療救護班計16個班を編成しています。救護班1個班の編成は、医師1人、看護師長1人、看護師2人、主事2人の計6人を基準としており、災害の状況や規模などにより要員の増減、または薬剤師等の必要な職種を追加する体制となっています。

その他、災害救助法第16条及び宮城県地域防災計画等に基づき、医療及び助産についての救護、遺体の処理等について宮城県および仙台市と委託契約を結び、訓練を重ね、装備を充実させて、常時出動できる体制を維持しています。



令和7年度救護班任命式（石巻赤十字病院・集合写真）



令和7年度救護班任命式（石巻赤十字病院・授与の様子）

(2) 臨時救護活動実施状況

宮城県内で実施された、仙台七夕まつりやみちのくYOSAKOIまつりなどのイベントに臨時救護所を設置し、傷病者の応急手当を行いました。

件数	派遣救護員数（延べ）								取 扱 患者数
	医師	看護師長	看護師	主事	奉仕団員	支部職員	その他	合計	
29件	17名	2名	45名	21名	32名	10名	0名	127名	122名

(3) 救護装備の整備と充実

救護装備資材の本年度配備数

品名	配備先	市地区	郡地区・分区	管内施設	計
ワンタッチテント		12張	6張	0張	18張
赤十字災害救援等車両「はくあい号」		2台	2台	0台	4台

(4) 救援物資の配分状況

被災区分	被災世帯	被災人数	救援物資配分数			
			毛布	緊急セット	安眠セット	タオルケット
住家全焼	50世帯	133名	124枚	59組	3組	0枚
住家全壊	0世帯	0名	0枚	0組	0組	0枚
住家半焼	10世帯	21名	11枚	10組	0組	0枚
住家半壊	0世帯	0名	0枚	0組	0組	0枚
住家床上浸水	2世帯	2名	3枚	1組	0組	0枚
避難所等に避難を要する	3世帯	8名	4枚	3組	0組	0枚
その他	11世帯	16名	17枚	10組	0組	0枚
計	76世帯	180名	159枚	83組	3組	0枚



救援物資
(緊急セット)



救援物資
(安眠セット)

(5) 救護訓練・救護員研修

① 訓練の実施状況

訓練名称	実施日	場所	参加者数				計
			仙台 日赤	石巻 日赤	血液 センター	支部	
石巻赤十字病院救護班出動訓練	5月25日	石巻市	0	71	0	2	73
みやぎ県民防災の日総合防災訓練	6月11日	宮城県庁	2	5	0	3	10
仙台市総合防災訓練	6月12日	宮城県消防学校	7	0	0	1	8
水害対策訓練(止水板設置訓練)	6月23日	石巻市	0	45	0	0	45
宮城県9.1総合防災訓練	8月31日	丸森町	7	0	0	1	8
宮城県東部保健福祉事務所災害対応訓練	9月5日	石巻市	0	27	0	0	27
大規模地震時医療活動訓練(DMAT政府訓練)	9月5日 6日	宮城県庁・石巻市	8	12	0	2	22
模擬給油訓練(災害時石油供給連携計画)	9月19日	石巻赤十字病院	0	5	0	0	5
第1ブロック支部合同災害救護訓練	10月10日 11日	秋田県秋田市 男鹿市	8	6	0	4	18
仙台空港航空機事故対応訓練	10月16日	名取市(仙台空港)	7	7	0	2	16
仙台赤十字病院大規模災害訓練	10月18日	仙台赤十字病院	96	16	0	0	112
石巻赤十字病院大規模災害訓練	11月15日	石巻赤十字病院	6	337	0	0	343
海上保安庁合同訓練	11月18日	塩竈市	8	8	0	3	19
原子力災害養生訓練	1月28日	石巻赤十字病院	0	15	0	0	15
原子力災害傷病者受入訓練	2月12日	石巻赤十字病院	0	19	0	0	19



第1ブロック支部合同災害救護訓練(避難所巡回)



宮城海上保安部との合同訓練(傷病者に応急処置/訓練使用の巡視船)



②救護員等研修の実施状況

名 称	主 催	開催数	延日数	延参加者数
救護班要員研修	仙台赤十字病院	1回	1日	65名
	石巻赤十字病院	2回	2日	76名
トリアージ研修（記載等）	石巻赤十字病院	3回	3日	33名
トリアージ研修（PAT）	石巻赤十字病院	2回	2日	51名
エアーテント設営研修	石巻赤十字病院	1回	1日	20名
救護班等研修（ITコース）	石巻赤十字病院	3回	3日	73名
救護班等研修（ロジコース）	石巻赤十字病院	2回	2日	34名
テールゲートリフター研修	仙台赤十字病院	1回	1日	4名
	石巻赤十字病院	2回	2日	32名
こころのケア要員研修	石巻赤十字病院	1回	1日	34名
	仙台赤十字病院	1回	1日	12名
	日本赤十字社宮城県支部	1回	1日	6名
こころのケア指導員養成研修	日本赤十字社本社	2回	2日	14名
こころのケア指導者フォローアップ研修	日本赤十字社本社	1回	1日	27名
第1ブロック赤十字救護班研修会	日本赤十字社宮城県支部	1回	2日	101名
日赤災害医療コーディネート研修会	日本赤十字社本社	3回	6日	44名
日本DMAT養成研修	厚生労働省	8回	32日	40名
統括DMAT研修	厚生労働省	1回	2日	8名
統括DMAT技能維持研修ロジスティック研修	厚生労働省	1回	2日	11名
日本DMATロジスティクス研修	厚生労働省	1回	2日	4名
DMAT技能維持研修	厚生労働省	2回	2日	12名
宮城県災害医療技能研修	宮城県	1回	2日	19名
宮城県医療救護活動従事者研修会	宮城県	1回	2日	2名
原子力災害医療派遣チーム研修	高度被ばく医療支援センター	1回	1日	10名
原子力災害中核人材研修	高度被ばく医療支援センター	2回	6日	9名
原子力災害中核人材技能維持研修	高度被ばく医療支援センター	1回	2日	2名

（6）災害義援金の取扱状況

県内外の篤志者から下記のとおり寄託があり、本社・被災地の日赤支部・地方自治体の義援金配分委員会を通じて、全額が被災された方々に配分されています。

名 称	件数	受 付 額	名 称	件数	受 付 額
令和6年能登半島地震災害義援金	143件	3,609,069円	令和6年9月能登半島大雨災害義援金	93件	1,053,262円
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	149件	8,122,314円	令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	57件	499,210円
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	38件	180,138円	令和7年8月6日からの大雨災害義援金	75件	575,949円
令和7年台風第12号災害義援金	22件	71,773円	令和7年台風第15号災害静岡県義援金	26件	87,394円
令和7年台風第22号及び第23号災害義援金	17件	56,598円	令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	52件	642,532円
令和7年青森県東方沖地震義援金	31件	488,500円			
			計	703件	15,386,739円



令和6年能登半島地震災害義援金及び令和6年9月能登半島大雨災害義援金の寄託（塩釜地区防災安全協会）

・2 国際活動

（1）国際援助活動

変動を続ける国際情勢と世界各地に頻発する各種災害などによる被災者や難民等の救援活動は、日本赤十字社本社が中心となって活発な活動を展開していますが、国際活動への各支部の直接参加の要請の高まりに対応して、第1ブロック支部間で協調による国際援助活動を実施しています。

事業内容	対象国	当支部支援額	第1ブロック合計
救急法普及支援事業	ラオス	243,000円	1,500,000円
青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ	243,000円	1,500,000円
気候変動等レジリエンス強化事業	ルワンダ	243,000円	1,500,000円
気候変動対策事業	アフガニスタン	243,000円	1,500,000円
支援合計額		972,000円	6,000,000円



現地で救急法支援を行う日本赤十字社救急法指導員



赤十字の支援で完成した水道が村にいのちの水を届ける

(2) 国際救援事業

紛争が続く中東地域や、新たに難民が発生している東南アジアの情勢に対応するため、日本赤十字社では、皆様から寄せられた救援金をもとに、救援活動や人道支援を展開しています。

また、毎年NHKと共催で「海外たすけあい」キャンペーンを12月に全国一斉展開し、寄せられた寄付金で本社を通じて国際救援事業を実施しています。

名 称	件 数	受 付 額
バングラデシュ南部避難民人道危機救援金	9件	3,692円
ウクライナ人道危機救援金	26件	89,232円
2025年ミャンマー地震救援金	97件	1,304,047円
2025年パキスタン洪水救援金	2件	1,721円
2025年アフガニスタン地震救援金	9件	107,723円
イラン及び周辺国人道危機救援金	2件	2,284円
NHK海外たすけあい	311件	1,212,491円
中東人道危機救援金	12件	29,913円
無指定	4件	88,911円
計	472件	2,840,014円



海外たすけあい街頭募金活動

・3 (赤十字の講習

「人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努める」という赤十字理念のもと、事故防止思想の涵養と不慮の事故や急病に対する救命手当及び応急手当の方法を内容とした「救急法」をはじめ、各種の講習を広く一般の方々を対象に開催しました。

(1) 救急法

病気やけが、災害から自分自身を守り、傷病者を正しく救助し、医師等引き継ぐまでの救命手当及び応急手当として、「心肺蘇生」「AED」「気道異物除去」「急病」「止血法」「包帯」「固定」「搬送」などの知識や技術を指導しました。

(2) 水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るため、「水の事故防止」「泳ぎの基本と自己保全」「溺者の発見と救助」「着衣泳」「応急手当」などについて実技を中心に指導しました。

(3) 健康生活支援講習

「高齢者の健康と安全」「自立した生活を続けるための基礎知識」「地域における支援活動」に役立つ知識と技術や、災害時に高齢者を不安や不自由な生活から守り、自立した生活が維持できるよう、支援技術を指導しました。

また、これまで以上に広く地域で普及することを目指す体制整備として、指導員確保のために「指導員養成講習」を開催し、新たに11名の指導員が誕生しました。

(4) 幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防（安全教育）と応急手当の方法、病気への対応の仕方を指導しました。また、子育て世帯やその家族に、子どもの健康と安全に関する知識と技術を手軽に学んでいただけるよう、育児用品を取り扱う店舗を会場に一次救命処置の体験イベントを開催しました。

①各講習の開催状況

(単位：回 または 名 / 受講者数は延べ人数)

区分 講習名	基礎講習			養成講習			短期講習		計（講習別）	
	開催数	受講者数	養成者数	開催数	受講者数	養成者数	開催数	受講者数	開催数	受講者数
救急法	35	598	597	18	341	339	159	4,797	212	5,736
水上安全法 (プール)				2	11	11	13	308	15	319
健康生活 支援講習				6	61	61	19	322	25	383
幼児安全法				7	106	103	107	1,912	114	2,018
計 (区分別)	35	598	597	33	519	514	298	7,339	366	8,456



救急法



幼児安全法

②救急法等指導員研修会の実施状況

	回数	参加者数(延べ人数)					
		赤十字職員				ボランティア	計
		支部	病院	血液センター	看護専門学校		
救急法等指導員研修会	6回	19名	60名	3名	9名	106名	197名

参考：指導員の在籍状況

所属 指導員資格	赤十字職員				ボランティア	計
	支部	病院	血液センター	看護専門学校		
救急法指導員	10名	26名	3名	4名	59名	102名
水上安全法指導員	1名	4名	0名	1名	14名	20名
健康生活支援講習指導員	2名	22名	0名	3名	7名	34名
幼児安全法指導員	4名	12名	1名	1名	25名	43名
計(延べ人数)	17名	64名	4名	9名	105名	199名

③ワールド・ファーストエイド・デー事業の実施状況

国際赤十字・赤新月社連盟が救急法等の普及のため推進している本事業に呼応し、救急法等講習普及イベントとして、9月に県内2会場にて、ワールド・ファーストエイド・デー 2025を開催しました。

日程	市町村名	会場	体験者数(延べ)
9月13日	利府町	イオンモール新利府北館2F北イベントコート	42組107名
9月15日	石巻市	イオンモール石巻1F緑の広場	63組117名

【開催内容】

【一次救命処置体験コーナー】

体験者の希望に沿えるよう、成人・幼児・乳児の訓練人形を用意して、手順の説明とデモンストレーションを行い、実際に人形を使って体験していただきました。様々な年代の参加があり、皆さん大変熱心に取り組んでくださいました。また、体験後には記念品を配布しました。

【「子ども用救護服・看護実習衣」お着替えコーナー】

赤十字に興味を持っていただくきっかけ作りとして、実際に赤十字職員や看護学生が着用する救護服や看護実習衣(子どもサイズ)に着替えたお子様の姿を、保護者の方に自由に撮影していただきました。めったに体験することのできないイベントに、盛況を博しました。



・4 (赤十字奉仕団・赤十字ボランティア

赤十字奉仕団には、市区町村の地域ごとに結成されている「地域赤十字奉仕団」、青年・学生によって組織されている「青年赤十字奉仕団」、看護師の資格など専門技術や知識を持った方々による「特殊赤十字奉仕団」があり、地域でのボランティア活動や赤十字活動のサポート役として活動しています。

また、個人登録のボランティアとして、災害救護活動をサポートする防災ボランティア、赤十字病院や献血ルームでの日常的なサポートを行うボランティアなど、多くの方が赤十字ボランティアとして活動しています。

これら奉仕団やボランティアは、赤十字事業の推進力として、地域的・社会的に重要な役割を果たしながら今日に至っています。

ボランティアの皆さまが、赤十字の一員として主体的に活動ができるよう内部体制の整備に努め、さらに地域の日赤窓口である地区・分区と連携し、引き続き活動の活性化を図ってまいります。

(1) 赤十字奉仕団結成状況

区分	奉仕団数	団員数
地域赤十字奉仕団	136団	10,817名
青年赤十字奉仕団	3団	221名
特殊赤十字奉仕団	12団	285名
計	151団	11,323名



JRCに加盟する八幡こぼと園の子どもたちと一緒にを行った植栽活動の様子（仙台市八幡赤十字奉仕団）

(2) 会議・研修の開催状況

支部では奉仕団に関連する会議・研修会を、各奉仕団では奉仕団員が赤十字の理解を深め奉仕団の自主性や活動の活性化を図ることを目的とした赤十字奉仕団基礎研修会を開催しました。

会議・研修会名	開催時期	会 場	参加者
赤十字奉仕団・青少年赤十字指導講師会議	6月4日	支部	7名
赤十字奉仕団宮城県支部委員会	6月25日	支部	14名
赤十字奉仕団委員長・団長会議	6月25日・29日	支部	77名
奉仕団リーダーシップ研修会	11月26日・29日	支部ほか	31名
赤十字奉仕団基礎研修会	27奉仕団 延べ735名参加		

(3) 赤十字奉仕団活動奨励事業（令和7年度申請状況）

各奉仕団が地域高齢者福祉支援活動など地域における様々なニーズに対応した活動を推進しています。

活動内容	申請団数	申請額
① 地域高齢者福祉支援および青少年の健全育成	46団	3,898,000円
② 災害に対する救援・防災訓練	14団	1,192,500円
③ 献血の推進	1団	30,000円
④ その他赤十字の理想を達成するための活動	8団	1,025,000円
計	69団	6,145,500円



地域の防災訓練で子どもたちに三角巾の使い方を指導（仙台市山田鉤取赤十字奉仕団）

(4) 赤十字防災ボランティア

日本赤十字社では、災害救護活動をサポートする「防災ボランティア」を募集しています。

宮城県支部では、日本赤十字社長期ビジョンの運動基盤強化戦略「奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充」に基づき、ボランティアがより主体的に活動するための「日本赤十字社宮城県支部赤十字防災ボランティア養成研修実施要領」を令和5年度に策定し、災害時に活動するための知識と技能を研鑽する研修を開催しています。

また、ボランティアリーダーが主体的に行う研修についても、次年度から開催する予定としています。

研修種名	開催時期	会場	参加者
赤十字防災ボランティア登録研修	6月14日	支部	9名
赤十字防災ボランティアスキルアップⅠ	6月14日	支部	9名
赤十字防災ボランティアスキルアップⅡ	7月19日	支部	4名
赤十字防災ボランティア登録研修	1月10日	支部	13名
赤十字防災ボランティアスキルアップⅠ	1月10日	支部	12名
赤十字防災ボランティアスキルアップⅡ	2月7日	支部	8名



赤十字防災ボランティア養成研修
（屋形テントの組み立て）

・5 (青少年赤十字 (J R C)

青少年に自ら赤十字の人道的な価値を学ぶ機会を提供し、世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年を育てることが、青少年赤十字の理念・目標となっています。青少年赤十字は、学校教育の場において、指導者（教員）のもとに実施されており、幼稚園・保育所・認定こども園、小・中・高等学校等、特別支援学校に組織され、幼児教育・学校教育の中で進められています。

活動する際の態度目標である「気づき、考え、実行する」という自主性に基づき、世界の青少年赤十字に共通する3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や学校内外の実情に応じた活動を展開しています。

令和7年度は、コロナ禍以降中止していた地区のリーダーシップ・トレーニング・センターを栗原地区や石巻地区で再開するなど、地区単位での活動も活発になりました。中学生及び高校生のJRCメンバーを対象とした「宮城県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」では、参加生徒は「～ Think Globally, Act Locally ～ SDGs 達成のために、学校や地域でこれからできる活動を考えよう！」をテーマとし、各校や部活動で今後取り組む活動を計画しました。

また、長年にわたり交流を続けているタイ国赤十字社のユースメンバーとJRC高校生メンバーのオンラインによる国際交流会を防災をテーマに開催し、震災の記憶と教訓を子どもたちに繋ぐ「JRCオンライン語り部LIVE」を全国の青少年赤十字加盟校等を対象に配信するなど実践目標に向けた活動を展開しました。

(1) 青少年赤十字の3つの実践目標

- ① 「健康・安全」 生命と健康を大切にする。
- ② 「奉仕」 人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する。
- ③ 「国際理解・親善」 広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う。

(2) 加盟状況

区 分	加盟校数	メンバー数	指導者数	加 盟 率	
幼稚園	5 園	228 名	75 名	186 園中	2.7 %
保育所(園)	10 所	175 名	122 名	343 所中	2.9 %
認定こども園	16 園	782 名	322 名	244 園中	6.6 %
小学校	49 校	14,083 名	891 名	351 校中	14.0 %
中学校	38 校	9,796 名	674 名	196 校中	19.4 %
義務教育学校	1 校	340 名	12 名	5 校中	20.0 %
高等学校	24 校	5,293 名	154 名	96 校中	24.0 %
特別支援学校	3 校	66 名	52 名	30 校中	10.0 %
合計	146 校	30,763 名	2,302 名	1,451 校中	10.1 %

(3) 会議・研修の開催 ※指協 … 青少年赤十字指導者協議会、賛協 … 青少年赤十字賛助奉仕団協議会

	主催	行事名	開催日	会場	参加者
会議関係	全国指協	青少年赤十字全国指導者協議会総会	7月4日	本社	県指協会長
	県指協	宮城県青少年赤十字指導者協議会役員会	5月26日	支部・WEB	役員19名参加
			11月28日	支部・WEB	役員15名参加
	全国賛協	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会等	7月8日 9日	本社	県賛助奉仕団委員長
	山形県支部	第1ブロック支部青少年赤十字指導者研究会	10月23日 24日	山形県山形市	第1ブロック支部JRC加盟校指導者等参加

(4) 青少年赤十字研究協力校の指定

学 校 名	指定年度	活動助成金額	実践発表
角田市立金津小学校	令和7・8年度	200,000円	令和9年1月に研究発表予定

(5) 青少年赤十字国際交流事業

当支部では、長年にわたりタイ国赤十字社とそれぞれの赤十字施設や学校をJRCメンバーが直接訪問し、国際交流事業を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により令和2年度に一度中止としました。令和3年度からは、WEB会議形式で「RCY/JRC オンライン国際交流会」を実施しています。

【オンライン国際交流会】

区分	期日	参加者	主な内容
WEB	令和8年3月21日	タイ：RCYメンバー 10名 宮城：JRCメンバー 10名	①自己紹介 ②地域・文化・JRC活動の紹介 ③防災活動の紹介 ④プレゼント交換 他



オンラインで交流している様子



宮城とタイの参加者全員で記念写真

(6) JRC オンライン語り部LIVE

当支部では、東日本大震災から10年を迎えた令和2年度から震災の記憶と教訓を子どもたちに繋ぐため、公益社団法人3.11メモリアルネットワークと協働し、語り部さんのお話をオンラインで全国の青少年赤十字加盟校の児童・生徒（小学校3・4年～高校生）に生配信する「JRC オンライン語り部LIVE」を開催しています。今年度は全国24都府県、延べ60校、3,755名が参加しました。

期間	配信回数	語り部	参加校・参加者数の内訳
令和8年1月～2月 のうち11日間	19回	公益社団法人3.11メモリアルネットワークのメンバー 12名	小学校 : 36校 2,637名 中学校 : 9校 943名 高等学校 : 14校 171名 特別支援学校 : 1校 4名



配信会場から語り部さんが小学生に語りかけている様子



高校生が語り部さんのお話を真剣に聴いている様子

・6 (赤十字精神と社旨の普及

赤十字の活動と必要性について、県民の皆様から理解が得られるよう従来の手法に加え、SNS等を活用し広報展開しています。また、赤十字大会の開催などを通じ、赤十字精神と社旨の普及に努めています。

(1) 広報活動

媒体等	実施時期等	事業内容
ホームページ SNS	通年	【ホームページ】 自家更新システムにより、タイムリーに情報提供しています。 【Facebook・Instagram】 日赤の様々な活動を、タイムリーに情報提供しています。
広報紙	月刊	【赤十字NEWS】 5,400部/月(本社発行)、当支部より配布しています。
	年3回	【日赤みやぎ】 A4判 6P・13,500部/5・9・1月、支部より発行しています。 「赤十字NEWS」と併せて配布しています。
各種広告	随時	①パブリシティ活動 支部事業等をPRするため、情報番組に出演しました。 8月25日 tbc東北放送「ひるまでウォッチン」 11月7日 ミヤギテレビ「OH!パンドス」 ②バス広告(1～3月) 仙台市交通局3営業所のバス計5台の中扉車外戸袋窓に、 当社アンバサダー・上白石萌音さんをメインにしたPR広告を掲出しました。
イベント	随時	【日本赤十字社宮城県支部 新社屋見学会】 5月31日 令和5年10月に泉区に移転した新社屋の紹介と、赤十字活動への理解促進を目的に施設見学会を実施し、地域住民の皆様を中心にご参加いただきました。 内容：施設見学、プチ防災セミナー、段ボールベッド組み立て体験、無線体験、ホットケア、AED体験、赤十字なりきり体験(子ども用救護服・看護実習衣での記念撮影)、「赤十字この1年」上映、活動紹介パネル展示、ハートラちゃん着ぐるみでのPR 【赤十字フェスティバル】 8月4日 イオンモール新利府南館1階ライブスクエアで夏休み中のお子様と保護者を中心に、赤十字活動への理解促進と自由研究につながる機会の提供を目的に、管内施設と連携して実施しました。 内容：プチ防災セミナー、段ボールベッド組み立て体験、AED体験、赤十字なりきり体験(子ども用救護服・看護実習衣での記念撮影)、救護物資や救護装資器材の展示、車両展示、産業医や助産師による講話、ハートラちゃん着ぐるみでのPR、スタンプラリー
その他	随時	【子ども用救護服・看護実習衣、活動紹介パネルを用いたPR】 奉仕団や地区区分の協力を得て、地域で開催する各種イベントに際し「子ども用救護服・看護実習衣」の記念撮影や活動紹介パネル展示等によるPR活動を実施しています。



当支部の活動を見える化した
広報紙「日赤みやぎ」



活動資金がどのように使われているかをまとめた募集用チラシ



仙台市営バスにPR広告を掲出



赤十字フェスティバル（イオンモール新利府）

（２）「赤十字大会」・「赤十字の集い」などの開催

活動資金のご協力や日々の赤十字活動に尽力下さる多くの方々を顕彰するため、全国赤十字大会への参加、また支部が主催する「社資功労者感謝のつどい」ほか県内３地区（本部）で大会等を開催しています。

主催	名称	開催日	会場	参会者数
本社	全国赤十字大会	５月１３日	明治神宮会館（東京都）	１,４００名
支部	社資功労者感謝のつどい	１０月２１日	ホテル白萩（青葉区）	３７名
地区	塩竈市赤十字奉仕団表彰式	７月１７日	ふれあいエスブ塩竈（塩竈市）	４１名
	仙台市地区本部赤十字奉仕団大会	８月２２日	仙台銀行ホール イズミティ ２１（泉区）	１８５名
	石巻市地区赤十字功労者表彰式	１１月１３日	石巻市ささえあいセンター（石巻市）	５０名

７ パートナーシップ協定等

赤十字事業にご賛同いただいた法人・団体等と相互の資源を有効に活用して密接に連携・協働することにより、自然災害や高齢化に伴う健康不安など社会を取り巻くリスクへの対応や赤十字の理念の普及を目的とし、パートナーシップ協定を結んでいます。

また、お申し出をいただいた自動販売機設置者と覚書を取り交わし、活動資金へのご協力をいただく寄付金型自動販売機の設置も進めています。

パートナーシップ協定の締結先			（敬称略）
学校法人栴檀学園 東北福祉大学	株式会社仙台８９ＥＲＳ	三井住友信託銀行株式会社	
ライオンズクラブ国際協会３３２－Ｃ地区	日産プリンス宮城販売株式会社		
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社仙台支店	株式会社七十七銀行		

・8 (会員・協力会員の募集状況

日本赤十字社は、毎年2,000円以上を拠出して組織の運営に参画して下さる「会員」と、組織運営への参画までは望まないが、金額によらず活動資金を支えていただく「協力会員」を募集しています。

令和7年度も引き続き物価高が続く経済状況も相まって厳しい募集状況でしたが、赤十字活動を熱心にご支援くださる方々の大口のご協力により、募集計画や前年同期比を大きく上回っております。

これからも、人間のいのちと健康、尊厳を守る赤十字活動を安定して継続するために、改めて皆様のご協力をお願いいたします。

◎社資実績

募集取扱い	区分	募集計画額	実績額	計画達成率	前年同期実績額	前年同期比
地域	個人	229,698,009円	216,074,756円	94.1%	224,256,355円	96.4%
	法人	10,117,500円	20,753,583円	205.1%	11,107,641円	186.8%
支部	個人	43,301,991円	212,757,496円	491.3%	103,700,001円	205.2%
	法人	16,882,500円	16,542,894円	98.0%	21,171,484円	78.1%
合計		300,000,000円	466,128,729円	155.4%	360,235,481円	129.4%

※管内施設整備のための使途指定寄付金を含みます。
※個人住民税対象の海外救援金を除きます。

・9 (評議員会等の開催状況

本社理事会・代議員会、当支部評議員会ともに、感染防止に努めながら、参集形式で開催しております。

主催	名称	開催場所
本社	日本赤十字社理事会・第106回代議員会	6月27日 新霞が関ビル（東京都）
	日本赤十字社理事会	11月21日 日本赤十字社本社（東京都）
	日本赤十字社理事会・第107回代議員会	3月19日 新霞が関ビル（東京都）
支部	第135回日本赤十字社宮城県支部評議員会	6月10日 日本赤十字社宮城県支部（泉区）
	第136回日本赤十字社宮城県支部評議員会	2月10日 日本赤十字社宮城県支部（泉区）

・10 (職員研修の開催状況

主催	名称	開催日	会場	参加者数
本社	新規採用職員研修会	4月2日 ～ 4日	日本赤十字社本社 （東京都）	2名（宮城BC2名）
	全国中堅幹部職員養成研修	9月	WEB	3名（支部1名／仙台日赤1名／ 石巻日赤1名）
ブロック	第一ブロック支部 合同職員（課長）研修会	9月17日 ～ 19日	山形県支部 ※当番県 山形県支部	17名（青森1名／秋田3名／ 山形1名／福島3名／宮城9名）
支部	新任職員研修会	4月2日	仙台日赤	27名
	中堅職員研修会	10月30日 ～ 31日	支部	23名（仙台日赤4名／石巻日赤11名 宮城BC4名・東北BBC4名）

・11(支部事務局職員数

職 種	専 任	嘱託等	計
事務職員	12名	2名	14名
保 健 師	1名	0名	1名
看 護 師	1名	0名	1名
計	14名	2名	16名

・12(医療事業

1. 仙台赤十字病院

(1) 令和7年度診療実績

地域医療支援病院として、年間の紹介率は80.8%、逆紹介率は111.4%を維持し、地域医療に貢献しております。

救急医療においては、仙台市病院群当番制事業に参加しており、年間2,568件の救急車を受け入れています。

また、令和6年度より、仙台市立病院などの関係機関と連携し、救急病院で専門的治療を終了した患者さんの受け入れ体制も強化しており、57件の搬送の受け入れを行いました。



仙台赤十字病院外観

(2) 宮城県立がんセンターとの統合

仙台赤十字病院と宮城県立がんセンターを統合し、名取市植松入生に新たな拠点病院を整備します。

令和8年1月には、病床数400床、診療科を35科とする基本計画について県庁で記者会見を行いました。

その後、太白区役所や各医師会、開設予定地の地元住民の皆様への説明会も順次開催しております。

現在は、令和14年度上期の開院を目指し、ワーキンググループでの協議などを行っています。

(3) 災害救護活動

災害対応訓練として、令和7年10月に院内大規模地震災害訓練を実施しました。

本訓練は、事業継続計画(BCP)および災害対策マニュアルの検証を目的としており、以下の項目を実施しました。

- ① 災害対策本部訓練
- ② 新設部門および既存部門の訓練
- ③ 巡回診療・傷病者搬送訓練
- ④ 病棟避難訓練
- ⑤ 安否確認テストメールの配信
- ⑥ 炊き出し訓練

今回は、地域の防災訓練(八木山地区総合防災訓練)と連動させることで、地域に根差した災害対応体制の強化と、防災意識の普及を図りました。

「③ 巡回診療・傷病者搬送訓練」では、八木山小学校においてトリアージを実施しました。

また、院内で行った「⑥ 炊き出し訓練」には、地域赤十字奉仕団、社会福祉協議会、中学生ボランティアの皆様にもご参加いただき、地域の皆様とともに取り組む実践的な訓練となりました。



院内大規模地震訓練トリアージエリア設置

(4) 広報強化・地域住民との連携

令和7年度より市民セミナーの開催地域を拡大し、名取市においても開催しております。

同年度は、仙台市太白区での開催を含めて全5回実施し、延べ265人の方にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

その他にも、中学生・高校生の職場体験の受け入れや、地域イベントへの参加など、積極的な活動を行っています。



市民セミナー「いつまでも元気に歩くために～股関節のお話」

(5) 教育研修の機会の充実と質の向上

院内における職員向けの取り組みとして、コードブルー訓練や救急法短期講習、職員防犯・安全研修会を引き続き開催しています。

また、看護部門における業務改善コンペティションや、事務部門の主事級職員を対象とした勉強会、学会参加による他病院の好事例の導入等、教育研修の機会を通じて医療の質向上に努めております。

さらに、3月には病院機能評価を受審しました。

業務が適切に行われているか、組織的な運営となっているか等について外部委員による評価を受け、そこで浮き彫りになった課題を踏まえ、今後の業務改善に取り組んでまいります。



心肺停止を想定したコードブルー訓練



看護部門業務改善コンペ

令和7年度診療実績

区 分		患者数
入 院	のべ患者数	101,146名
	1日平均	277名
外 来	のべ患者数	99,908名
	1日平均	412名

2. 石巻赤十字病院

当院は、“世界一強く、そして優しい病院”をビジョンに掲げ、「働きがいのある職場づくり」「高度・急性期医療への集中」「業務プロセスの最適化」という3つの戦略のもと、様々な施策を展開してきました。

・地域医療連携課

地域医療連携については、地域の各医療機関と切れ目のない医療を提供するため、がんや肺炎、COPDに加え、大腿骨頸部骨折や心不全、間質性肺炎等の疾患別地域連携ネットワークのさらなる拡充を進めました。併せて、患者さんがスムーズに入院を迎え、望ましい状態で退院・転院し、地域で安心して継続的に医療・介護・福祉サービスを受けることができるよう、院内においては入院前・退院前の早期支援体制の整備、院外とは各医療機関や在宅支援チームとの連携体制の整備を進めています。

地域がん診療連携拠点病院として整備指針に基づいて地域におけるがん診療連携の円滑な実施を図るとともに、質の高いがん医療の提供体制の確立を目指しています。がん患者やその家族ががん治療に伴って抱える不安や辛さに対しては、がん相談支援センターや緩和ケアセンターなどで多職種で連携してサポートしていく体制を構築しています。

・救急課

救命救急医療では、“断らずに済む”診療体制を維持し、令和7年度は25,349人の救急患者を受け入れ、地域の救命救急センターの役割を担ってきました。

・教育研修課

臨床研修指定病院として、がん診療などのさまざまな医療提供を行うための基礎的技能の習得に向け、研修医のニーズを反映した環境づくりと支援を継続的に進めるとともに、医師の働き方改革への対応として、適切な労務管理のもと研修が進められるよう取り組みました。臨床研修医はフルマッチングで内定し、14名が入職しました。必修領域のローテーション期間を4週へ再修正し、希望領域の自由選択研修ができる環境づくりを行いました。12月には指導医養成講習会を自院開催し、16名の受講者（うち当院職員6名）をもって終了、臨床研修環境の強化につなげています。また、研修評価にPG-EPOCを導入し、評価票と併せて評価し、年に2回の面談にて研修医にフィードバックしています。研修歯科医の協力型研修施設としての受け入れは0名でしたが、体制整備は継続しています。医学生向けの説明会等は5回（うちオンライン説明は2回）実施し、医学生の見学・実習も積極的に受け、281名（実習90名、見学190名・オンライン見学1名）の受け入れをし、学生のうちから当院研修プログラムへの興味・関心喚起に努めました。基本領域専門研修基幹施設として内科と外科プログラムを有しており、内科1名、外科2名を採用し、研修環境の調整と整備、専門医育成と定着に向けた支援を継続的に行いました。



石巻赤十字病院外観



研修医集合写真

・災害救護課

災害救護活動の実働はありませんでしたが令和7年8月にカムチャツカ沖地震による津波警報に伴い、災害対応を行いました。HOTセンター立ち上げや帰宅困難者対応を行いました。令和7年9月には政府訓練と同時に石巻医療圏災害保健医療対応訓練を実施し、市町や保健所の職員、地域災害医療コーディネーター・救護班、県の薬事コーディネーター、日本DMAT・宮城DPAT、近隣の病院、当院看護学生等約275名が参加しました。訓練では、各医療圏保健医療調整本部の運営や連携を確認し、避難所アセスメント実施による情報収集や分析等を通じて、各機関の情報伝達や連携を強化し、災害医療活動の習熟を図りました。令和7年11月には、マニュアルの検証を目的に大規模地震災害実働訓練を実施し、当院職員と当院・他校看護学生等約450名が参加しました。災害対策本部では水害BCPの検証も行いました。見学者も迎え、各地域に開かれた訓練を行なっています。また、赤十字事業に貢献できる人材として今年度は赤十字講習の健康生活支援講習指導員を8名（学校職員含む）育成しました。



大規模災害訓練

・管財課

設備投資としては、より高度で安全な医療サービスを提供するために、老朽化した設備・機器等の更新を行っています。

・会計課

令和7年度の経営収支について、入院診療収益は減少したものの外来診療収益が大きく増加し、医業収益は前年度比1.2%増となりました。医業費用は、材料費や給与費の増加により前年度比3.1%増となりました。前年度に続き退職給付関連費用の期末整理による巨額の費用戻入を計上したことから、医業収支においては大幅な黒字決算となりました。医業外収支においては、運営費補助金等収益の増加により、利益が拡大しました。最終的な総収支は、1,028,721,308円の大幅黒字となりました。ただし、前述の巨額の費用戻入は非キャッシュ性の会計処理であることからキャッシュ面のプラスはありません。その影響を除いた実質的な収支は赤字拡大であり、経営実態としては依然厳しい状況です。

令和7年度診療実績

区 分		患者数
入 院	のべ患者数	154,179名
	1日平均	459名
外 来	のべ患者数	259,256名
	1日平均	1,161名

13 看護師養成事業

石巻赤十字看護専門学校

1. 教育について

Z世代と言われる学生は、講義を聴いているだけの授業を苦手とし、講師からの一方的な知識の伝達では学生の興味・関心を引き出せない難しさがあります。当校では、グループワークや演習等のアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生が主体的に学習できる授業の組立を各専任教師が進めています。他に院内講師として石巻赤十字病院の各専門職の方々に協力を得ていますが、認定看護師・専門看護師・特定看護師などの看護のスペシャリストにも入って頂くことで、学生のキャリア目標の設定や学習の動機づけになればと期待しているところです。

厚生労働省が発令する保健師助産師看護師学校養成所指定規則において令和4年度から導入された新カリキュラムでは、コミュニケーション力や観察力、多職種連携のあり方について強化する内容へ改定され、これまで以上に臨地で直に患者さんと接することや、実際に働いている医療職を目にすることで学びが重要視されています。今後も現場の力を借りながら、より良い学びに繋がられるよう尽力していこうと思います。

また、当校の特色として看護技術の習得に向けて学生ピアグループによる活動を取り入れています。1～3年生が均等に少人数グループに分かれ、グループの先輩が1年生に技術指導を行うシステムですが、学年を超えた貴重な情報交換の場にもなっているようです。このよう

な学習支援を行ない、令和7年度は無事に全員が卒業・進級できました。年度末に実施している教育目標到達度自己評価では、全学年とも8つある教育目標への年次到達度自己評価平均が、5段階評価の4.0以上であり、学年目標への到達はできていると評価していました。学生は環境に適応しながら学習に取り組んでいることを実感しています。



1年生演習風景

2. 教育環境の整備

学生は学習活動や、学生同士あるいは教師、臨地実習指導者との関りの中で多くの課題や困難を乗り越える必要があります。そのため当校では、学校カウンセラー相談室を設置し、ニーズのある学生には専門家による支援を継続しています。学校カウンセラーの活用により、令和7年度は休学や退学に至る学生は発生しませんでした。

政府が主導している教育DXの推進により、義務教育の過程はICT技術を活用した授業が取り入れられています。この教育DX推進の波が看護師養成教育にも波及し、当校でも令和7年度から電子教科書を導入し、学生が一人1端末を持って学習できるようになりました。学生がより学びやすい環境を目指して、さらにDX化の推進に力を入れています。

実習においては、令和4年度の新カリキュラム導入以降、地域施設での実習時間を増やしていますが、各実習施設のご協力もあり、計画した通りに臨地で実習ができました。学内演習においても病院職員の協力を得て、実践さながらの充実した内容で授業が展開できました。今後も、病院・地域施設のご協力を得ながら、学生がより良く学べる場の提供に努めて参ります。

3. 受験生・入学生の確保

18歳人口の減少により、大学を始めとした高等教育機関では入学生の確保が大きな課題となっています。宮城県内では看護専門学校の閉校や複数の大学看護学部の開設で看護師養成の環境が大きく変化しようとしています。このような環境変化の影響を受け、当校では受験者が年々減少し、入学生の確保には心血を注いでいます。令和7年度は宮城県内・県外へと積極的に進路ガイダンスへ出向き、高校の進路担当教師との顔の見える関係の構築にも取り組みました。その結果、出願倍率は推薦1.9倍、一般2.5倍と昨年より出願者が増加し、令和8年度は40名の入学生を確保できました。引き続きアドミッションポリシーに則した学生の確保に向け、今後も学校説明会への積極的な参加等、学生確保に向けた取り組みを強化していこうと考えています。



オープンスクール

4. 赤十字医療施設への就職状況

卒業生の設置病院への就職者は18名(75%)、進学者2名を除くと赤十字病院への総就職率は79.2%でした。今後も地域における設置病院の役割に貢献できる看護師の育成について、病院教育担当者とさらに協議を進め、赤十字医療施設への就職率の維持に努めていきます。現在、設置病院の人事部門と協働して2年生への進路(就職)ガイダンスや、学生

の希望に合わせた講師の検討等を継続して行っています。これにより学生は明確なキャリア構想を述べられるようになっていきます。今後も、設置病院と協働で学生へのキャリア支援を進めていきたいと考えています。

また、令和8年2月に行われた看護師国家試験は、現役生の合格率が過去10年間で最も低くなりました。社会が看護師に求めるニーズの拡大と共に看護師の資質も問われていると考えます。当校学生全員が合格できるよう、個人の学習ニーズに合わせた支援を継続していこうと思います。

5. 地域との連携・社会貢献

令和4年度から新カリキュラムが導入され、地域包括ケアの中で活躍できる看護師を育成する目的で当校でも地域の施設やNPO団体の活動を知るために病院外施設での実習を増やしました。令和7年度はそういった実習施設から学生ボランティアの派遣要請を受けることも多く、学生と相談しながら可能な限り対応しました。超高齢社会の中で、地域が若者の力を必要としていることを感じます。もちろん赤十字事業への参加もしており、特に献血キャンペーンへの応援は学生奉仕団の主要な活動の場ともなっています。今後も社会に貢献できる活動を継続していきたいと思います。学生の活動の様子は学校ホームページへ掲載し、広く一般の人々へも公開しています。



クリスマスイベントボランティア

令和7年度在校生

学 年	学生数
第1学年	40名
第2学年	40名
第3学年	29名
計	109名

令和8年3月31日現在

・14(血液事業

宮城県赤十字血液センターは、過疎化、少子高齢化が進む東北6県をエリアとする東北ブロックに属し、ブロックの中で人口が最も多く若年層の割合が高いことから、献血者確保の中心的な役割を果たしています。

また、輸血用血液製剤は、採血後限られた時間内で調製しなければならないため、面積の広い東北ブロックにおいて、製造業務を行う東北ブロック血液センターに隣接する宮城県赤十字血液センターは、医療機関の需要に応じて必要な血液を適時に迅速に確保するうえでも、重要な役割を担っています。

令和7年度の全国の献血者数は、5,001,234人（対前年度比+0.28%、13,925人増）で、このうち宮城県では89,030人（同+1.65%、1,445人増）の皆様にご協力をいただきました。献血種類別では、200mL献血が2,540人（対前年度比+4.79%、116人増）、400mL献血が59,508人（同+1.17%、691人増）、血漿成分献血が15,834人（同-8.22%、1,419人減）、血小板成分献血が11,148人（同+22.63%、2,057人増）となりました（グラフ1参照）。

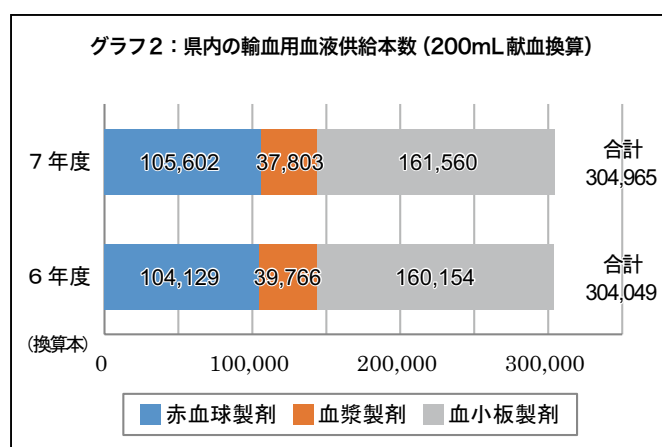
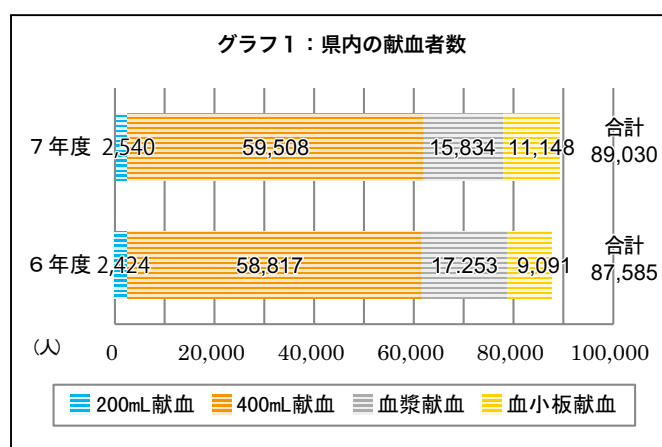
一方、令和7年度の全国の輸血用血液製剤供給本数（200mL献血を1本として換算）は、17,516,277本（対前年度比+0.83%、143,371本増）で、このうち宮城県内の医療機関への供給本数は304,965本（同0.3%、916本増）でした。血液製剤別では、赤血球製剤が105,602本（対前年度比+1.41%、1,473本増）、血漿製剤が37,803本（同-4.94%、1,963本減）、血小板製剤が161,560本（同+0.88%、1,406本増）となりました（グラフ2参照）。

少子高齢化が進む中で、宮城県でも10代（令和5年度:4,462人→令和6年度:4,643人→令和7年度4,866人）、20代（令和5年度:13,350人→令和6年度:12,694人→令和7年度12,473人）、30代（令和5年度:13,852人→令和6年度:13,316人→令和7年度12,993人）の献血者をいかに増やすかが喫緊の課題となっています（グラフ3参照）。

令和6年度から宮城県知事および宮城県教育庁の協力の元、従来の献血実施のみならず、高校での献血セミナーや献血バスの見学などにより献血啓発活動に重点を置き若年層確保に努めております。また昨年7月16日に第61回全国献血運動推進全国大会が48年ぶりに仙台市で開催され、式典に先立ち秋篠宮皇嗣妃殿下が当センターをご視察なされました。所長から宮城県の献血推進の現状と展望について説明をお受けになった後、赤十字加盟校から集まった小学生による献血のメッセージを託した七夕飾りの様子をご見学されました。なかでも妃殿下自らテーブルを回られ児童たちに親しくお声をかけてくださったことは、献血運動の精神を未来に託すうえで大きな支えになりました。



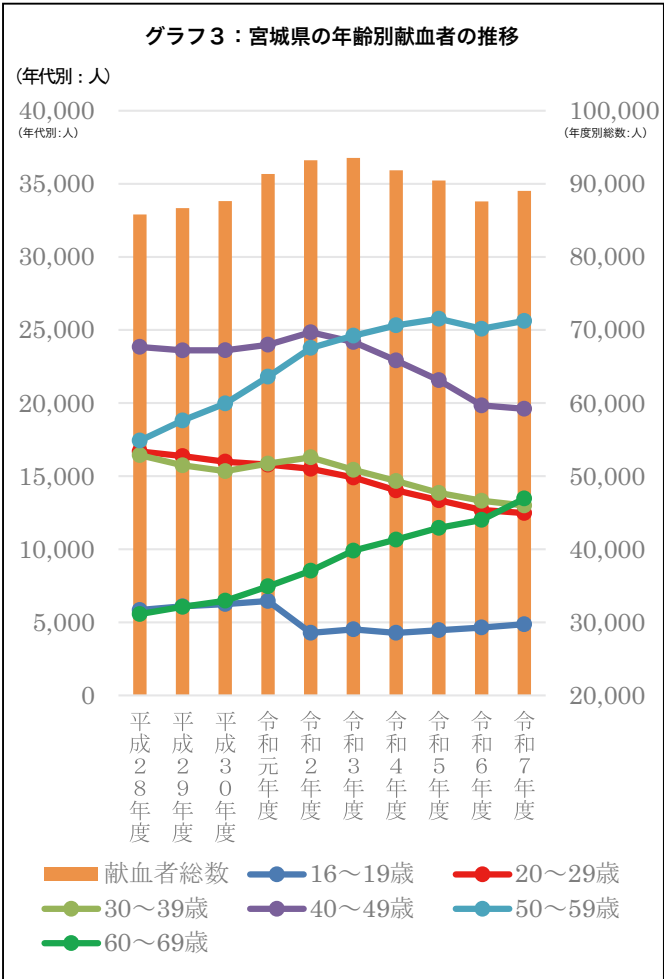
宮城県赤十字血液センター



宮城県赤十字血液センターでは、国の掲げる基本方針に基づき、血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保とともに、事業の最大限の効率化及び合理化を図り、適正かつ健全な事業運営に努めています。



献血運動推進全国大会 血液センターご視察 令和7年7月16日



15 令和7年度決算

○一般会計
〈日本赤十字社宮城県支部〉

歳入歳出状況 (単位：円)

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
社 資 収 入	470,045,728	災害救護事業費	35,858,410
委託金等収入	448,654	社 会 活 動 費	70,323,247
補 助 金 及 び 交 付 金 収 入	7,904,226	国 際 活 動 費	4,888,999
災 害 義 援 金 預 り 金 収 入	0	指 定 事 業 地 方 振 興 費	10,416,999
繰 入 金 収 入	3,916,999	地 区 分 区 交 付 金 支 出	41,964,995
資 産 収 入	7,500	社 業 振 興 費	43,082,297
雑 収 入	7,074,232	基盤整備交付 金・補助金支出	55,634,510
前年度繰越金	80,742,088	積 立 金 支 出	139,336,184
		総 務 管 理 費	49,323,660
		資産取得及び 資産管理費	4,879,820
		本社送納金支出	67,669,309
合 計	570,139,427	合 計	523,378,430
歳入歳出差引残高 46,760,997 (翌年度繰越金)			

○医療施設特別会計
〈仙台赤十字病院〉

収益の収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
医 業 収 益	8,715,110,393	医 業 費 用	7,687,108,479
医 業 外 収 益	467,456,048	医 業 外 費 用	163,133,413
医療社会事業収益	267,200	医療奉仕費用	47,345,939
付帯事業収益	0	付 帯 事 業 費	0
特 別 利 益	768,571	特 別 損 失	246,193
		法 人 税 法 等	3,815,886
合 計	9,183,602,212	合 計	7,901,649,910
収入支出差引額 1,281,952,302			

資本的収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
固 定 負 債	11,344,437	固 定 資 産	47,011,980
資産売却収入	0	借入金等償還	26,613,250
その他資本収入	62,280,793	そ の 他 負 債	0
合 計	73,625,230	合 計	73,625,230
収入支出差引額 0			

〈石巻赤十字病院〉

収益の収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
医 業 収 益	22,030,585,753	医 業 費 用	22,091,320,049
医 業 外 収 益	1,355,683,002	医 業 外 費 用	162,430,838
医療社会事業収益	59,037,642	医療奉仕費用	92,501,567
付帯事業収益	142,485,432	付 帯 事 業 費	183,410,926
特 別 利 益	30,000	特 別 損 失	28,388,777
		法 人 税 法 等	1,048,364
合 計	23,587,821,829	合 計	22,559,100,521
収入支出差引額 1,028,721,308			

資本的収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
固 定 負 債	109,124,000	固 定 資 産	430,140,205
資産売却収入	0	借入金等償還	481,116,000
その他資本収入	802,132,205	そ の 他 負 債	0
合 計	911,256,205	合 計	911,256,205
収入支出差引額 0			

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。



これからも
ご協力よろしく
お願いします

日赤公式キャラクター

ハートちゃん

■宮城県の赤十字支部・施設

名 称	所在地・ホームページ	電話・FAX
日本赤十字社宮城県支部	〒981-3117 仙台市泉区市名坂字石止4-4-7 ホームページ https://www.jrc.or.jp/chapter/miyagi/	☎ 022 (725) 7520 FAX 022 (725) 5150
仙 台 赤 十 字 病 院	〒982-8501 仙台市太白区八木山本町2-43-3 ホームページ https://www.sendai.jrc.or.jp/	☎ 022 (243) 1111 FAX 022 (243) 1101
石 巻 赤 十 字 病 院	〒986-8522 石巻市蛇田字西道下71 ホームページ https://www.ishinomaki.jrc.or.jp/	☎ 0225 (21) 7220 FAX 0225 (96) 0122
石巻赤十字看護専門学校	〒986-8522 石巻市蛇田字西道下71 ホームページ https://www.ishinomaki.jrc.or.jp/school/	☎ 0225 (92) 6806 FAX 0225 (95) 5015
宮城県赤十字血液センター	〒981-3206 仙台市泉区明通2-6-1 ホームページ https://www.bs.jrc.or.jp/th/miyagi/	☎ 022 (290) 2501 FAX 022 (777) 6335
献 血 ル ー ム ア エ ル 20	〒980-6120 仙台市青葉区中央1-3-1 アエル20階	☎ 022 (711) 2090
杜の都献血ルームAOBA	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-9-18 TICビル6階	☎ 022 (738) 9101



日本赤十字社 宮城県支部

Japanese Red Cross Society